

編集後記

程度の差はあれ、「うつ状態」になった経験は、読者の皆様にも、おありなのではないでしょうか。

重症の場合は別として、軽いうつ状態は、日常茶飯時に誰しも経験し、特に専門家の援助を必要とせずに、自然に回復していきます。そのためでしょうか、臨床で当面するうつ状態の患者に対しては、職員それぞれが、自らの経験に照らして、比較的気楽にかつ常識的に接してしまうことが、多いようです。こうした接し方自体が大いなる誤りであり、ますます悪化させてしまう一因になることに全く気がつかずに、です。

医療職と呼ばれる職種の全てが、うつ状態のサインを的確に読みとり、その都度適切な対応ができるようになれば、医療の質は随分と高くなるだろうに、との自戒の意味をこめて、この特集を組んでみました。いずれの論文も力作揃いで、一気に読みました。

吉松氏の「うつ状態の病理と治療戦略」は、大きなテーマを簡潔かつ分りやすく展

開して下さいました。うつ状態のスペクトルの広がりや奥行きを把握し、治療戦略の基本を理解するのに、利用して頂きたいと思います。横田氏の「うつ状態の看護」は、臨床で陥りやすい落とし穴を具体的に書いて頂きました。障害受容につきもののうつ状態の複雑な心性と対応上の盲点がお分かり頂けたかと思います。斎藤・久保両氏による「うつ状態の理学療法」、澤氏の「うつ状態の作業療法（身体障害）」の2編は、患者に鍛えられ、教えられ、苦勞させられた貴重な体験が見事に結晶した力作です。一見、些細なことと思われる対応面での配慮が、いかに OT・PT の効果を左右するかを読みとって頂けたらと思います。石谷氏の「うつ状態の作業療法（精神科）」は、御自身の抑うつ体験を洞察することで、うつ状態のみにくい精神力動を述べて下さいました。自分自身の精神衛生のみならず、うつ状態の患者に対するセラピスト自身の情緒を内省するきっかけになればと、願っています。それではまた。

(富岡 詔子)

理学療法と作業療法

(第20巻 第6号)

1986年6月15日発行(毎月1回15日発行)

1部定価 1,250 円(配送料60円)

(年ぎめ予約購読料 15,350円)
(ただし、特別増大号を含む)
(送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院

代表者 椿 孝雄

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 受付台 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5703

(担当: 西塚・細田)

販売部直通 (03) 817-5659・5660

広告室直通 (03) 817-5696

ファクシミリ (03) 815-7802

振替口座 東京 7-96693番

印刷所 株式会社印刷 電話(03)814-4961

広告申込所 株式会社医薬広告 電話(03)814-1971

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 1986,

Printed in Japan

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院名誉院長

五 味 重 春
東京都立医療技術短大長

砂 原 茂 一
国立療養所東京病院名誉院長

津 山 直 一
国立身体障害者リハビリセンター病院長

(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部

荻 島 秀 男
ペインリハビリテーションクリニック 高島平
整形外科

大喜多 潤
兵庫県リハビリセンター

寺 山 久美子
東京都立医療技術短大

富 岡 詔 子
信州大学医療技術短大

奈 良 勲
金沢大学医療技術短大

福 屋 靖 子
筑波大学

松 村 秩
東京都立医療技術短大

<編集同人>

池 松 洋 子

伊 東 元

岩 崎 テル子

宇都宮 初 夫

金 子 誠 喜

鎌 倉 矩 子

木 村 信 子

菊 地 延 子

小 嶋 裕

斎 藤 みち子

鈴 木 明 子

高 橋 正 明

田 口 順 子

橋 元 隆

古 川 宏

松 沢 博

宮 崎 和 子

宮 前 珠 子

山 田 貞 雄

矢 谷 令 子